

メルマガ「運輸安全」第21号

■■■■■■■■メルマガ「運輸安全」（H23. 2. 1. 第21号）■■■■■■■■

~~~~（目次）~~~~

## 1. 運輸安全に関する最近の動き

- 「運輸安全マネジメント制度の現況について」を公表！

## 2. 現場だより

- 「運輸事業者危機管理セミナー」を開催しました！！（東北運輸局）

## 3. 運輸安全取組事例の紹介

- 自ら考え行動するグループ会議活動の取組  
（事業者名：カリツー株式会社）
- 安全評価システムの活用により安全計画立案時に定量的な目標設定に取り組む  
（事業者名：西日本空輸株式会社）

~~~~

1. 運輸安全に関する最近の動き

- 「運輸安全マネジメント制度の現況について」を公表！

平成22年10月で運輸安全マネジメント制度導入4周年を迎えたことを機に、今回、平成21年10月～平成22年9月の制度に関する活動等を取りまとめた冊子を作成しました。冊子には、制度の動向や評価を受けた事業者の皆様の声、有識者の方より制度に関するご意見や研究のご紹介、更に、本メルマガにて紹介している運輸安全取組事例等を盛り込み、国土交通省のホームページにて公表しております！本冊子が少しでも、皆様の安全に関する取組のご参考となれば幸いです。

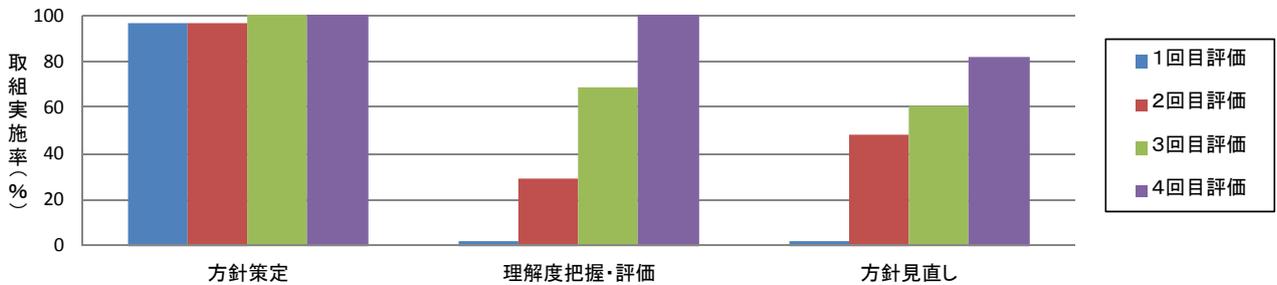
公表ページ：http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo10_hh_000019.html

<運輸安全マネジメント評価結果の傾向（抜粋）>

運輸安全監理官室による運輸安全マネジメント評価の対象となっている136事業者について、この4年間で実施した評価結果の傾向は、以下の通りです。※詳細は、公表ページをご覧ください。

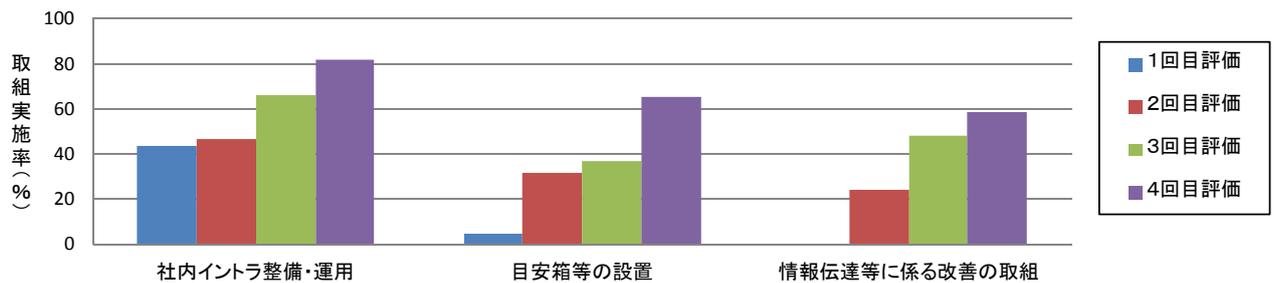
① 安全方針

方針策定	97%→100%	理解度把握・評価	2%→100%	方針見直し	2%→82%
------	----------	----------	---------	-------	--------



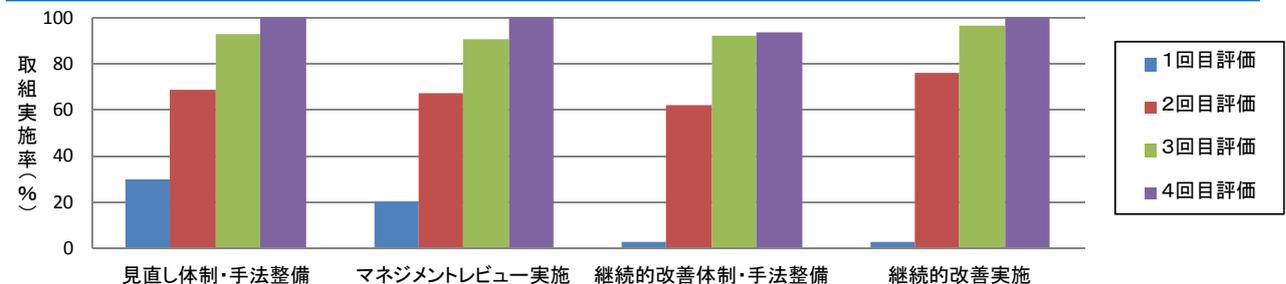
② 情報伝達・コミュニケーション

社内イントラ整備・運用	44%→82%	目安箱等の設置	5%→65%
情報伝達等に係る改善の取組	0%→59%		



③ マネジメントレビュー・継続的改善

見直し体制・手法整備	30%→100%	マネジメントレビュー実施	20%→100%
継続的改善体制・手法整備	3%→94%	継続的改善実施	3%→100%



2. 現場だより

○「運輸事業者危機管理セミナー」を開催しました！！（東北運輸局）

平成22年12月15日、ホテルメトロポリタン仙台において、東北地方の陸・海各運輸事業の経営トップを対象に、危機管理の第一人者である柳田邦男氏等を講演者に招いて「運輸事業者危機管理セミナー」を開催しました。

本セミナーは、東北運輸局が音頭役となって立ち上げた運輸事業者危機管理セミナー協議会（管内の鉄道・索道・バス・タクシー・トラック・旅客船の各協会等で構成）が主催となり、安全・安心社会の構築に向けて、組織としての危機管理について

再認識していただくことを目的に開催したもので、340名もの方にご参加いただきました。



前半の基調講演では、柳田先生から

『ヒューマンエラー ～組織事故の視点と取組について～』と題し、

- ・事故の捉え方には「責任追求」と「原因追求」の2種類があり、責任追求だけでは再発防止に繋がらず原因究明と対策が重要であること。
- ・組織の皆が共有するため「情報の水平展開を図る」ことの重要性、ミスやエラーは大事故を防止する重要な材料であり、責めたり隠したりさせない風通しのよい組織作りが大切であること。

等について具体例を交えながら詳しくお話しいただきました。



後半は、岡本満喜子先生から

『安全文化を創るには ～運輸安全マネジメント制度の活用～』と題し、

- ・ 運輸安全マネジメント制度のポイントとして、経営トップは現場任せにしないこと。
- ・ PDCAサイクルを計画的かつ確実に実行し、安全文化を構築することが重要であること。

等についてご講演いただきました。



両講師から大変示唆に富む内容のご講演をいただきましたが、同時に行ったアンケートでも、「参考になった・非常に参考になった」という意見が8割以上を占めるとともに、「組織としての安全対策について再認識した」「会社に戻って活用したい」あるいは「毎年開催してほしい。」等の回答をいただきました。

本セミナーが今後の運輸事業の安全確保に向けて少しでも役立てていただければと切に願っているところです。

3. 運輸安全取組事例の紹介

今回は、編集部が最近お話を伺った運輸安全取組事例を1件と事業者の方から紹介のあった1件を掲載します。

○自ら考え行動するグループ会議活動の取組み（事業者名：カリツー株式会社）

職員の安全意識向上、コミュニケーション活性化のため、危険予知訓練レポート、事故分析レポート、事故分析報告書（特性要因図）を用いた解析、再発防止策の検討等を全ドライバーが行う小集団のグループ会議活動を実施しています。

→詳細は<http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/List/data065.pdf>

○安全評価システムの活用により安全計画立案時に定量的な目標設定に取り組む

（事業者名：西日本空輸株式会社）

職場内の安全文化醸成のため、職員に対して安全意識調査を実施し、その結果を数値化することにより、職場実態に即した安全取組項目の立案と目標達成度の定量評価を実施しています。

→詳細は<http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/List/data066.pdf>